

地域医療構想をどう策定するか



評者

伏見 清秀 東京医科歯科大学教授・医療政策情報学

地域医療構想策定が平成27年度から始まっている。本書は、その第一人者である著者が、わが国の医療提供体制の課題、改革の方向性と理念、具体的な手法と考え方を詳細に解説した地域医療構想ガイドブックである。この地域医療構想は従来の医療計画と何が違うのか、どこまで実効性があるのか、私たちの地域医療にどのように影響するのか、私たちはどのように対応したらよいのかなど多くの方が持つ疑問に対する丁寧な回答が本書には記されている。

特に本書の「第3章 地域医療構想の考え方」に収載されている「地域医療構想のための模擬調整会議」は、具体的事例に基づく検討が臨場感いっぱいに記されていて、まさに調整会議に陪席しているようである。おそらく、全国各地でこのような形で地域医療構想の調整会議が進められていくのだろうと期待される。

この第Ⅲ章には、これ以外にも、地域医療構想とガイドラインの理念と背景、構想区域の考え方、地域医療構想立案手順などが具体的に書かれている。また、やや、センセーショナルに報道されている地域別病床数の適正化についても、もっと正確に情報を読み込み、冷静に対処

していくべきことが記されていて、関係者が地に足の着いた丁寧な議論を進めるための礎となるような重要な情報のエッセンスとなっている。

そのほかの本書の構成として、第Ⅰ章には、人口構造の高齢化に伴う疾病構造の劇的な変化とその地域差が豊富な図表とともに解説されている。資料編にも人口の将来推計ツール(AJAPA)が紹介されているので、読者それぞれの地域の実態を知ることができる。第Ⅱ章では従来の医療計画のレビューとその課題がわかりやすくまとめられ、今回の地域医療構想の違いと、それへの大きな期待が記されている。第Ⅳ章では、さらに幅広く地域包括ケアや財政問題とのかかわりまで紹介されていて、広い視点からの問題のとらえ方を知ることができる。

本書は、このように、今まさに進行している地域医療構想の全てをカバーしているといっても過言ではないだろう。地域の医療と介護を担う医療機関・介護事業関係者、地域医療構想策定のかじ取りを期待される地域行政担当者、現場で働く関係者、地域医療を研究する専門家など多くの人々にとって、これからの地域医療を考える上での必携の書といえよう。

松田 晋哉 著

B5判/120頁/2015年/定価(本体3,500円+税8%) / ISBN978-4-260-02433-4 / 医学書院 刊